

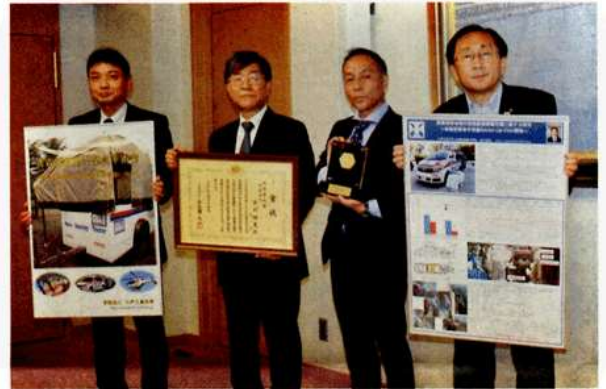
デーリー東北

2021年(令和3年)6月30日(水曜日) (16)

ドクターカーV3開発で文科大臣表彰

八工大・浅川准教授 「医療過疎地に 根差した活動を」

知事訪問



ドクターカーV3の開発で文部科学大臣表彰を受賞した浅川拓克准教授(右から2人目)ら



県都
だより

移動型緊急手術室「ドクターカーV3」を八戸市立市民病院と共同開発し、4月に文部科学大臣表彰の科学技術賞を受賞した八戸工業大の浅川拓克准教授が23日、青森県庁に三村申吾知事を訪ね、開発の経緯や受賞の喜びを報告した。

ドクターカーV3は人工心肺補助装置などを搭載しており、病院から離れた出勤先で心肺停止状態の患者を治療できる。へき地での救急医療における救命率向上に貢献している点が評価

された。

浅川准教授や、同大の坂本禎智学長ら3人が訪問。三村知事は「地域の課題を地域力で解決するという素晴らしいモデルだ。関係機関と連携し、取り組みを継続してほしい」とたたえた。

浅川准教授はドクターカーの技術を応用し、移動型の診療所「医療用コンテナ」の開発も進めており、産婦人科が少ない地域への設置を目指している。取材に「へき地医療や遠隔地医療など、医療過疎地に根差した活動を続けたい」と述べた。

(里村静)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。